



五中だより

令和 5 年 10 月 2 日
小平市立小平第五中学校
校長 伊藤 克行
小平市小川町 1 - 7 9 8

見えないものの価値

校長 伊藤 克行

先日、小平市学校給食センターのスタッフと話す機会がありました。私が「給食おいしくなりましたね。メニューもよく工夫されていて毎日とても楽しみです。」と伝えると、その方は嬉しそうに「そうですか。」と答えました。私が続けて「先日（9月11日のメニュー）の『そばめし』なんて感動でした。今まで給食で食べた事ありません。『あげかす』の食感もとても良かったです。」と続けました。するとその方が涙ぐんでいるのです。

「どうしたんですか？」と尋ね、お話を聞くと、「給食で『そばめし』を出したいと思い、この夏のお休みを使って、有名店のある神戸まで出向いて、実際に食べに行ってきたんです。そしてそのおいしさをなんとか給食で表現できないかと工夫を凝らしました。こんにゃくが入っていることをまねたり、給食では使えない牛すじ肉の代わりのお肉を工夫したり、そして手間を承知の上、食感を出せるよう『あげかす』をセンターで作って混ぜ合わせたんです。」そういつて、熱っぽく語ってくれました。



私はどうしてもこの話を皆さんに聞かせたくなり、こうして学校便りに書いています。

「愛情弁当」「愛情を込めて・・・」「丹精込めて・・・」などと食事にまつわるこのような言葉がたくさんあります。ですが、これらはすべて目に見えません。気づかなければ通り過ぎてしまいます。でも皆さんは『そばめし』の話を聞いてどんなことを感じましたか。毎日当たり前のように食べている給食にこんなドラマがかくれているのです。愛情込めて、丹精込めて作ってくれたことはもちろんですが、給食を食べている私たちが「おいしい」といつてくれることに涙を浮かべるくらい喜んでくれるその気持ちに私は感動しました。

みなさんの生活の中には、他にも目に見えないたくさんことがあります。練習がきつくて何度もやめようと思った部活を最後までやり続け、引退したときの寂しさや達成感。運動会の全員リレーで練習では1回も勝てなかったのに本番で勝てたときの感動、自分が落ち込んでいるときに何も言わずにただ聞いてくれる友人の優しさなど、目に見えないし、お金では買えないけど価値のあるものは周りにたくさんあります。でもそれに気づくことができたり、その価値を感じたりできることは、その人次第だと思います。

私は給食センターの人と話をして、給食がもっと楽しみになりました。私は五中生の皆さんが、目に見えないものに気づき、その価値を感じ、大切にできる人であってほしいと思っています。それはきっと皆さんの人生を豊かにするものだと思うからです。

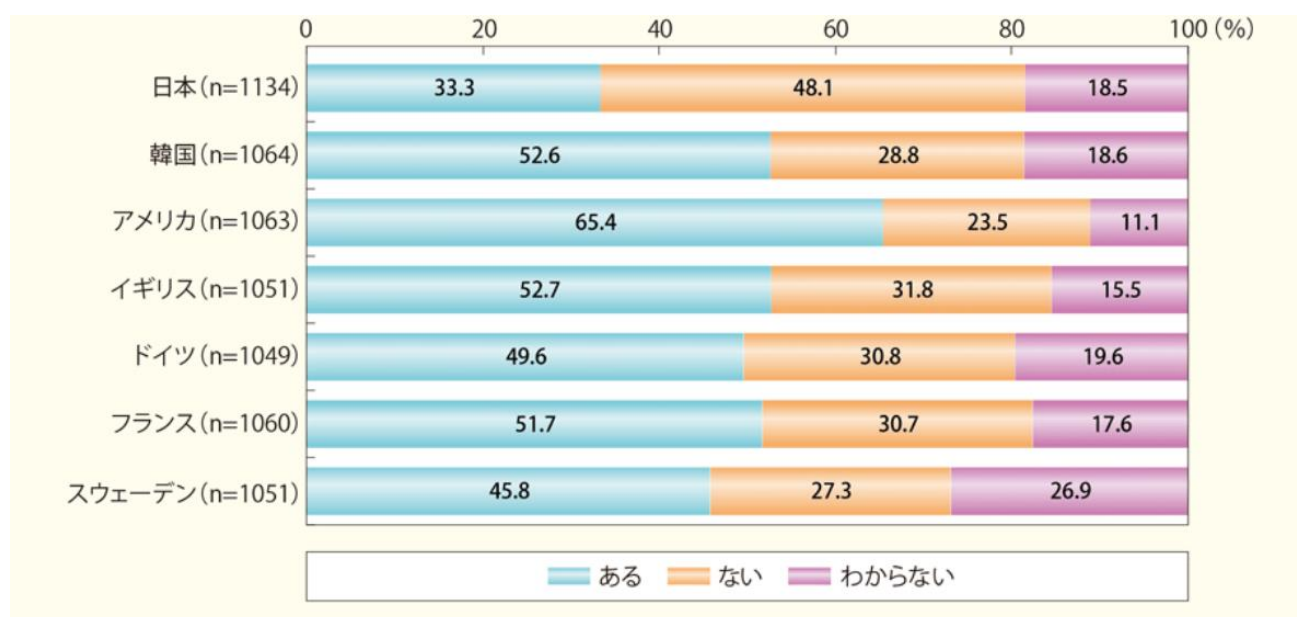
ボランティアウィーク（9／25～28）

前期の生徒会役員が五中のボランティア活動を盛り上げたいと考え、企画・運営を行い『ボランティアウィーク』が開催されました。25日朝の体育倉庫の清掃から始まり、朝のあいさつ運動、登校中のごみ拾い、そして最終日の校内清掃まで、毎日たくさんの生徒が参加し、「大成功」で終わることができました。参加してくれた生徒のみなさんの、活動中や活動後のさわやかな気持ちのよい表情がとても印象的でした。こういう活動が、五中の伝統になっていくとよいですね。そして、小さなことでみんなで盛り上げられる、そんな生徒会になっていってほしいと思います。



ところで、みなさんはボランティア活動にどのくらい興味がありますか？内閣府が2018年に行った「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」の中に興味深いデータがあります。

【Q ボランティア活動に興味がありますか？】



（2018年内閣府調査より。各国とも満13歳から29歳の男女約1000人を対象に調査）

ボランティア活動に興味がある「ある」と答えた日本の若者は33.3%で、アメリカの65.4%、イギリスの52.7%、韓国の52.6%から大きく引き離され、調査対象国の中で最も低い数字になっています。

「ボランティア活動に興味がある理由」は、日本でも他の国でも「困っている人の手助けをしたい」や「地域や社会をよりよくしたい」と答えた割合が最も高くなっていますが、アメリカやイギリス、ドイツでは「新しい能力を身に付けたり、経験を積んだりしたい」「自由時間を有効に使いたい」と答えた割合が日本を大きく上回っています。欧米諸国の若者はボランティア活動で人の役に立つことはもちろん、ボランティア活動を通して自分自身を磨くことも考えていると言えそうです。みなさんはこのデータをどう考えますか？